














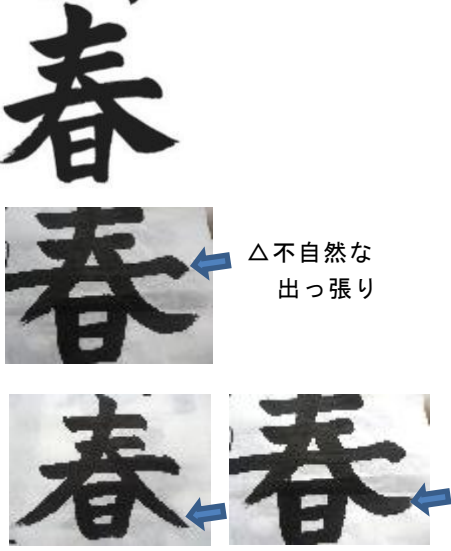
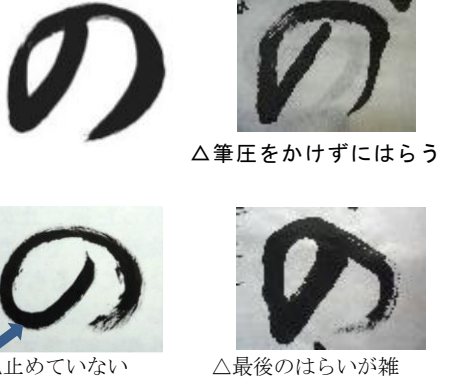
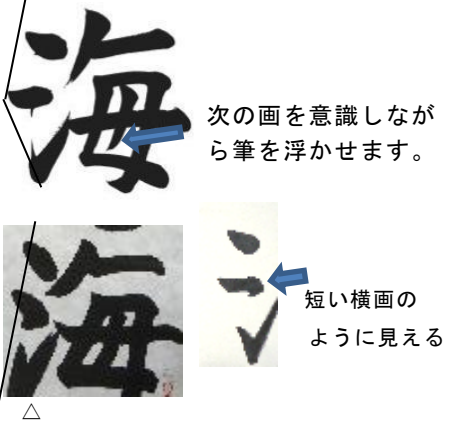
# 審査を終えて（小学校の部）

平成30年3月12日 本部書写委員会

年	詢	審査員からのコメント		
小学校 三年	お 年 玉	お	<p><b>①二画目の「はらい」の方向と筆使い</b>                      △3画目の「点」を意識するあまり、はらう方向が内側に入りすぎたり、はねていたりするものがありました。                      ・点に向けてゆったりと大回りするイメージで、はらいの筆使いを練習してみたいと思います。</p>	 <p style="text-align: center;">△                      ○</p>
			<p><b>②横画の方向と終筆の筆使い</b>                      △2・3画目は、右上がり、5画目は、かぶせて横画を書くようにしますが、丸みが強くなりすぎて下へ反ってしまうものがありました。                      △「とめ」は、押さえすぎてこぶができていたり、しっかりと止めずに、終筆を隷書のように抜いて書いていたりする作品がありました。</p>	 <p style="text-align: center;">△丸い                      △終筆を止めていない</p>
			<p><b>③横画の間隔</b>                      ○横画の間隔の取り方は、よくできていました。自分なりに見当を付けて練習している様子が文字から伝わってきました。</p>	 <p style="text-align: center;">○                      ○</p>
			<p><b>④横画・縦画の始筆の筆使い</b>                      △横画・縦画ともに、始筆を意識してほしいです。                      ・穂先を左上に向けて筆を入れることと、「トン」「スー」「ピタ」「クイツ」というようなリズムで、基本となる筆使いを練習するとよいです。</p>	 <p style="text-align: center;">△トン・スー・ピタ・クイツを意識</p>

評 語	審 査 員 か ら の コ メ ン ト	
小 学 校 四 年 級 天 空 の 星	天	<p>①横画の始筆・終筆の筆使いと四画目の「はらい」</p> <p>* 四画目は、初めは筆先から入り、次第に筆圧をかけて太くし、しっかりと止めてから右横にはらいます。</p> <p>○横画の始筆、終筆はよくできている作品が多くありました。</p> <p>△四画目のはらいは、しっかり止まっていない作品がありました。また、最後まではらわずに、途中ではらいが切れている作品もありました。</p> 
天 空 の 星	空	<p>②二・三画目の筆使いと上下の組み立て</p> <p>△二画目をはらっている作品が多くありました。また、三画目はしっかりと止まらずにはらっているものや、方向が下に向いているもの、止めた時に下に引きすぎてしまい、肩が落ちているものがありました。</p> <p>○組み立ては概ねできていましたが、穴冠が大きすぎたり、中心がずれてしまったりしているものもありました。</p> 
	の	<p>③「はらい」の方向と筆使い</p> <p>○全体的によくできていました。曲がりの方向やはらいに向かう位置を意識するとよいと思います。</p> <p>△はらいが雑なものや、かすれている作品もありました。筆に適量をつけ、最後まで丁寧にはらうことを心掛けてほしいと思います。</p> 
天 空 の 星	星	<p>④横画の間隔と文字の中心</p> <p>○横画の間隔、文字の中心は全体的によくできていました。</p> <p>△始筆、終筆ができていない作品がありました。特に縦画の始筆が悪いものが目立ちました。</p> <p>△「生」が大きくなりすぎて、「日」とのバランスが悪いものもありました。</p> 

年	級	審査員からのコメント	
光 雪 原  光る雪原	光  雪  原	<p>①二～三画、五～六画のつながりと六画目の筆使い</p> <p>○点画のつながりが意識できているものが多かったです。</p> <p>△六画目の「はね」の筆使いができていないものが多かったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・六画目のはねは、はねる前に筆を止め、左上を向いている筆の穂先に少し力を掛け、そのまま筆を回さずに上方へ向けてはねるとよいでしょう。</li> </ul>	 <p>筆の軸を左上（穂先の方向）に少し力を掛けると、穂先に力が掛かり、はねやすい</p>
	<p>②「おれ」と「曲がり」の筆使い</p> <p>○一つ目の「おれ」がきちんと折れているものが多かったです。</p> <p>△二つ目の「おれ」が浅いものがありました。</p> <p>△「曲がり」部分が縦長になったり、曲がり切らずに「むすび」が右寄りになったりしているものがありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲がりから結びの部分の字形を意識して書くとよいでしょう。</li> </ul>	 <p>この部分の筆づかいと形を意識</p>	
	<p>③「雪」の形と「冫」と「ヨ」の組み立て</p> <p>○丁寧に書いてあるものが多かったです。</p> <p>○上下、左右のバランスが取れているものが多かったです。</p> <p>△雨冠の二画目が「はらい」になっているものが非常に多く、三画目が「とめ」になっているものも多かったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤字にならないためにも、日常の漢字指導をよろしくお願いします。</li> </ul>	 <p>○とめ      ○はらい ×はらい    ×とめ</p>	
	<p>④一・二画の接し方と「厶」と「京」の組み立て</p> <p>○観点については、よくできているものが多かったです。</p> <p>△がんだれを紙の中心に書いた状態で、「京」を紙の中心に納まるように書いてしまうと、「原」の字の中心が左寄りになってしまいます。「京」を、紙の中心より少しだけ右側になる位置に書くと、「原」の字全体のバランスがとれます。</p> <p>△三字目までが大きくなってしまったために、「原」を書くスペースが狭くなっているものが多かったです。紙を折るなどの工夫をするとよいです。</p>	 <p>中心</p> <p>京 は中心より少しだけ右に書く</p>	

年 詢	審査員からのコメント	
小学校六年 新春の海	新	<p>①「へん」と「つくり」の組み立て            *へんとつくりは、点画がぶつかり合わないようにかみ合わせてバランスをとります。            △へんの「立」が大きく「木」が小さいものがたくさんありました。部分の位置や大きさ、横画の長さに気を付けましょう。            △へんの右側がそろっていないために、字が横長になってしまっている作品がありました。</p>  <p>△へんとつくりのバランスが悪いもの</p>
	春	<p>②横画と「はらい」の方向と筆使い            *4画目から5画目のはらいは、つながりを意識して、穂先から筆圧をかけて太くし、(穂先の向きを上)にしっかりと止めてから右方向に払います。            ○4画目から5画目の始筆へのつながりはよくできていました。            △横画の終筆を押さえすぎたために、不自然な出っ張りがある作品が目立ちました。筆の穂先をわずかに上に動かしてから筆で軽く紙を押さえます。そして、左上の方向へ筆を静かに持ち上げます。            △右払いの筆づかいの練習を望みます。しっかりと止まっていないものが目立ちました。また、右はらいは、左手の動きも大切です。紙をしっかりと押さえ、丁寧にはらいます。</p>  <p>△不自然な出っ張り</p> <p>△止めずに、下や右方向に抜いた線</p>
	の	<p>③「曲がり」の筆使いと「はらい」            *中央から左下に筆を下ろし、しっかりと止めてから上に持ち上げ、なめらかに弧を描きながら筆圧をかけていきます。最後は丁寧に穂先をそろえるようにしてはらいます。            △筆圧をかけながら太くしていくことが難しいようです。垂直方向への上げ下げの意識をもたせるとよいです。            △はらいが雑なものやかすれが目立ちました。また、かすれたために二度書きした作品も目立ちました。ゆっくり丁寧にはらいます。</p>  <p>△筆圧をかけずにはらう</p> <p>△止めていない</p> <p>△最後のはらいが雑</p>
海	<p>④穂先の動きと点画のつながり            *さんずいはの点は、トンと筆を置くだけでなく、穂先から入って筆圧を強くし、弱めながら止めます。また、穂先の動きが次の画へつながっていくように書きます。            ○つくりは、次の画を意識し、次の画へと筆を動かしていました。            △7画目が用紙からはみ出すのをおそれ、貧弱なはねになっている作品がありました。            △さんずいは外形が「く」の形になるようにまとめます。2画目が横画のようにになっている作品がありました。点でも横画にならない程度に筆を動かします。</p>  <p>次の画を意識しながら筆を浮かせます。</p> <p>短い横画のように見える</p>	

新春の海

### ⑤全体のまとめ・筆勢について

○手本をよく見て、丁寧に書こうとしている作品が多かったです。

△中心がそろっていない作品の多くは、紙を折っていませんでした。清書用紙も折って、文字の中心を意識させてください。当書き初め会は、紙を折って書いた作品を出品しても、審査結果に影響しません。

△筆の動かし方が乱暴で、はらいなどがバサバサになっている作品がありました。筆勢は大切ですが、筆をゆっくり丁寧に、穂先をそろえるようにして動かすとよいです。

△小筆で書いた名前が、ネームペンで書いたように硬い線になっている作品が多くありました。小筆も筆の弾力を使い、柔らかい線で書けるようになってほしいと思います。また、名前を書く位置にも気を配るとよいです。

### <全体を通して>

- ・2年目ということもあり、手本をよく見て、丁寧に書いてあり、よくまとまった作品が増えました。特に3年生は、入門期ということもあり、丁寧に指導された様子が作品から伺えました。
- ・筆の穂先に墨を含ませ、穂先を整えてから、一点一画を丁寧に書くという構えで、基本となる始筆や終筆の筆使いを練習してほしいと思います。
- ・始筆、終筆等、基本点画やの練習をしっかりとするとともに、画の接し方にも留意してほしいと思います。
- ・範書はちょっと苦手という先生方は、YOUTUBEの動画を御覧になり、I C T機器で児童に示すなど、御活用ください。※動画は書写委員長が個人的に制作しています。
- ・筆を根元までおろし、毛の弾力を使って書くと、毛筆の特性を生かした豊かな線で書くことができます。筆のおろし方が足りなかったり、固まっていたりして、硬い線になっている作品がありました。日頃から筆の手入れに気を配ってほしいと思います。
- ・敷き写しや骨字、籠字など、作品として不正なものが毎年出品されています。敷き写しは練習の段階でやるのはよいと思いますが、作品として出品されても、自力での作品ではないために審査できません。冬休みの宿題で、家で書く時に敷き写した作品を児童が提出し、学級担任の先生がよく確認しないで出品してしまったという事例が多くありました。中には、手本を拡大コピーして敷き写していると思われる作品もあります。審査側としても非常に心苦しいのですが、これらの作品については無印の対応としています。出品前に、手本に作品を重ねてみたり、手本を横に置いて確認したりし、作品として正しいものを出品するよう、御協力をお願いいたします。

### <事務手続きに関するお願い>

- ・作品を出品する際に、名簿の名前の漢字について、正しいか今一度御確認ください。また、外字は外字と分かるように、赤字で表示してください。認定証を各校へ届けた後、児童生徒に渡してから間違いが分かることが複数校でありました。
- ・認定証は教科書体に準じたフォントで印字しています。また、会長賞は、教科書体を踏まえ、手書き文字の一般的な字体で揮毫しています。しかし、複数校から「印刷文字の字体と認定証（会長賞賞状）の字体が異なるので、書き直してほしい」という依頼がありました。  
これについては、常用漢字表の付表2「字体についての解説」第2「明朝体と筆者の楷書との関係について」で、「…（前略）字体としては同じであっても、1、2に示すように明朝体の字形と筆者の楷書の字形との間には、いろいろな点で違いがある。それらは、印刷文字と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差と見るべきものである（後略）…」とあり、筆写の楷書ではいろいろな書き方があることを認めています。また、平成28年2月29日文化審議会国語分科会報告「常用漢字表の字体・字形に関する指針」（別紙参照）でも「手書き文字と印刷文字の表し方には、習慣の違いがあり、一方だけが正しいのではない」「字の細部に違いがあっても、その漢字の骨組みが同じであれば、誤っているとはみなされない」と示されています。これらのことを踏まえて当会でも印字や揮毫をしておりますので、字体例に示されている文字（または字体例が援用できる文字）については書き直しをしないことを御理解ください。